

津波、台風 心構え学ぶ

浜郷住民 伊勢市防災センター見学

住民の防災意識を高めようと、伊勢市の浜郷地区まちづくり協議会は十六日、同市楠部町の市防災センターの見学会を開いた。四月にオープンしたセンターは体験学習できる設備があり、煙が充満した室内からの逃げ方などを住民三百人が学んだ。

(大島康介)

避難体験や災害映像視聴

体験学習では一九五九「南海トラフ地震は嫌で年の伊勢湾台風や七四年も起きる。いかに被害をの七夕豪雨など、過去に減らすか考え続けてほしい」と語り掛けた。

伝える映像を見せた。県 浜郷地区まちづくり協議会が作ったシミュレーション映像は防災の取り組みに力を入れている。防災総務部の津波で鳥羽市中心部が水没する様子に、参加者たちは声を失っていた。

防災の専門家の講話も聞いた。NPO法人「ミューチャルエイド東海」の森本宏さん(左)・鈴鹿市は、普段から用意する防災グッズを紹介。調理用のガスボンベで動く発電機や現金がいざという時に便利だと話した。

友哉君(右)は、見学で地震への備えを考えたという「地震が収まるまで焦って動かないように」を話していた。



頭を低くし、口にハンカチを当てて煙から逃げる訓練をする女性たち＝伊勢市楠部町の市防災センターで

